
至って非凡な高校生活

凡ネット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

至って非凡な高校生活

【Nコード】

N4490Y

【作者名】

凡ネット

【あらすじ】

不本意ながら男子生徒として高校に入学することになってしまった佐渡歩夢の平凡とは程遠い高校生活…になる予定 他で連載してるのをこちらにも載せることにしました。

1 ある日の朝、二人の会話（前書き）

作者の処女作です。更新死ぬほど遅く文章構成がおかしい箇所もあるかもしれませんが、それでも良いよというかたはこのままどうぞ

1 ある日の朝、二人の会話

いつもの朝の風景

キッチンからカリビングからか、漂ってくる甘い匂いは食欲と眠気を覚醒させる。

姿鏡の前で自身の服装をチェックした。

兄のお下がりの制服は、不自然にならない、しかし体の線を隠してしまう程の余裕があった。

濃紺のブレザーに、首元が隠れる程度に伸ばされた艶を放つ黒髪垂れ目がちな瞳は黒というより茶の方が濃く、相手に甘い印象を与えた。

改めて自分の容姿を鏡で見て自重気味な笑いをこぼし、リビングに向かおうと自室の扉の方に目を向けた時……隙間、と言うには申し訳ない程開いた扉から瞳を輝かせた姉の姿が見えた。

「やだ歩夢ったら凄く似合ってる！」

「姉さんったら、そんなこといわれても全然嬉しくないよ？」

「だって、今の歩夢ったらまるで美少年でしょ！？新入生代表が美男子って漫画の世界みたい！」

「はぁ……」

一人テンションを鰻登りにさせている姉を後目に小さくため息を吐いた。

そう、「まるで」美男子のようであって、自分は男じゃない。断じて男じゃない！大切なことだから二度言いました。

けれど見た目どうしても、ズボンをはいてしまえば男にしか見えな
いのも事実。姉の制服をスカート恨めしげに見るが気付いた様子はなかった。
そもそも何故女の私が女用の制服でなく男用の制服を着る羽目にな
ったか、それは……まあ、説明するのも面倒くさい家庭の事情とい
うもので、
女であるのにこの格好が（不本意ながら）出来てしまうのは私が入
試テストで首席になったからだ。
学校側としても優秀な人材を制服ごときで逃がしてしまうのは惜し
いらしい。

「……私、女なのに」

「あ、こら！『私』じゃなくて『僕』でしょ？」

「……………はああ……………」

1 ある日の朝、二人の会話（後書き）

うぐ、小説って難しい…

2 代表挨拶と、二人の対話（前書き）

タイトルってこんなに考えるの大変だったんですね。
とゆうわけで二話目投下！

一話一話短い上に凄く読みにくい
主人公女っぽくない
むっずかしい

2 代表挨拶と、二人の対話

『新人生代表、佐渡歩夢さん』

エコーのかかったマイクの声に、曲がりかけていた背筋を伸ばし、髪を整え、胸を張る。

私の出番だ

舞台袖から一歩足を踏み出せば目を細めなくなる程眩しかった。

きっと端から見れば今の私は堂々としているように見えるだろうけど、内心は本気でヤバい状態だ。

何度も繰り返し練習した挨拶が頭の中をグルグルと駆け回っている。

緊張で頭が真っ白、正直ちゃんと話せていたかどうかも覚えていなかったけどなんとか終わって。上級生の方にちらりと目を向けると姉さんがグッジョブマークをしているのが見えた。あの調子ならよかったんだろう

ひとつ気になったことを挙げるなら、なんだかホール全体が妙に騒がしかったことくらいかな！。

あれから入学式は何事もなく進み、無事終わった。
そのまま所属教室に移動……かと思いきや、どうやら校長先生から
お話があるらしく、式終了後校長室に足を運んだ。

「ごめんなさいね。いきなり呼び出したりして」

「いえ、構いません。」

と、会話をしながら私と対峙している綺麗で妖艶な美女様が校長先生だ。

女性的な膨らみやらくびれやらがパンツスーツの上からでも分かってしまう。所謂グラマス体型で、同じ女としては羨ましい限りだ。だって私ってグラマスよりかはスレンダーな方だから。

……幸か不幸か、だから男装しても違和感がないわけなんだけどね
え……

む、胸が小さいとかくびれがないとかそんなんじゃないよ!!

おっと、話が逸れたかな。

まあつまり、すっごく色気があるってこと。

「あなたに2、3確認したいことがあるんだけど……」

そういつて足を組み換え、上目遣いで悪戯っぽく微笑む校長先生。ちよ、先生、それは男の人をオトす時にする仕草ですよ。

一生徒に、それも女に色気撒き散らすなんて勿体無いことしないでくださいな。そっちの道に目覚めたらどうしてくれる！………冗談だよ？

「これからの学校生活、佐渡さんは男子生徒として生活するの？」

「そのつもりです」

これは当然YES。自分で言うのも凹むけど今の私男にしか見えな
いしね。

それにこれで女って言って変に注目を集めるのもアレだし！。

「体育も行事も全て男として参加するの？」

「あ、一応は。毎日トレーニングとかしてるんで体力とか意外とあるんですよ、僕」

そうやって目を細めながらはにかむようにして微笑む。

これは姉さんによって半ば無理やり覚えさせられた笑い方だ。姉さん曰く、「男も女もイチコロの魔性の微笑み」だそう。

対抗意識燃やしちゃったわけじゃないけど。

そしたら校長先生はまつ毛の長い瞳を大きく見開き驚いたように私の顔を凝視してきた。しかしそれもほんの少しの間で、段々とその口元は弧を描き始める。

「驚いたわ。本当に翔君カケルに似てるのね」

⋮
え
?

2 代表挨拶と、二人の対話（後書き）

はい変なフラグ立てましたー。

中途半端ですが私をもたないので（失笑）いったんきりますねー
とりあえず自分が一体なにを目指しているのかわからない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4490y/>

至って非凡な高校生活

2011年11月21日23時46分発行